JAPRS

JUN.2019 No.2

初夏号

一般社団法人　日本音楽スタジオ協会

目　次

平成31年JAPRS新年会　1

JAPRS技術セミナー「アナログ・レコードカッティングの実際」　2

2019年JAPRS新人エンジニア育成研修会レポート　5

第３回中華圏セミナー「中国クライアントとの取引」　7

第30回NHK技術交流会レポート「吹奏楽生録セミナー」　12

JAPRSセミナー「働き方改革関連法の解説と実務対応」実施報告　17

会員動向　18

平成 31 年 JAPRS 新年会

1 月 24 日（木)、平成 31 年 JAPRS 新年会が開催されました。本年は、昨年に続き元赤坂・明治記念館 1 F「若竹」に於いて 101 名の参加者により実施されました。

高田会長

18：30 総務委員会・中村氏（ミキサーズラボ）の司会により開宴となり、最初に高田会長が年頭の挨拶を述べられる。

経済産業省 商務情報政策局
コンテンツ産業課 課長補佐
中山 祥氏

続いてご来賓の方々を代表し、経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長補佐 中山 祥氏が挨拶される。

一般社団法人日本レコード
協会理事　畑 陽一郎氏

次に関連団体を代表し、一般社団法人日本レコード協会理事 畑 陽一郎氏が挨拶される。

続いて乾杯となり、関連団体を代表して一般社団法人日本オーディオ協会専務理事 森 美裕氏により乾杯の発声が行われ、歓談の時間となる。
正会員、準会員、賛助会員の他に JAPRS に関連する 10 団体および 8 社からの招待者が加わり、会場の所々で歓談の輪が出来る。

一般社団法人日本オーディオ
協会 専務理事　森 美裕氏

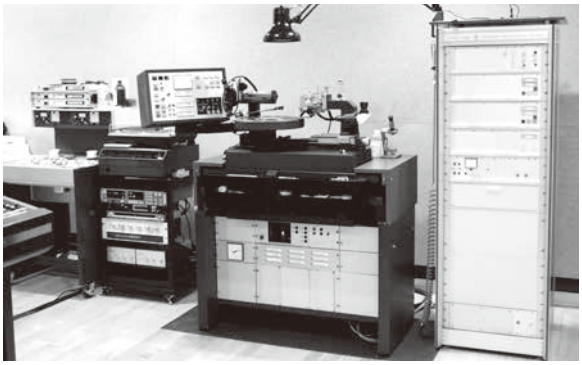
清水総務委員長

20：05 中〆の時間となり、清水総務委員長挨拶の後、20：20 無事に終了することが出来ました。

JAPRS 技術セミナー「アナログ・レコードカッティングの実際」

技術委員会では、昨年 11 月 17 日サウンドインＢｓｔに於いて開催した第１回セミナーに続き、第２回として「アナログ・レコードカッティングの実際」をテーマとする技術セミナーを、２月 16 日（土）ワーナーミュージック・マスタリング MAS-1st にて開催した。

ワーナーミュージック・
マスタリング
司会進行：菊地　功 氏



ノイマン VMS 80

Ⅰ部：「カッティング・レクチャー」（ノイマン VMS 80 を使用）

＜システムの説明＞

・レプロデューサー　　・コンソール

・カッターアンプ　　・カッティングレース

・プレイバック機器

＜カッティング前の調整＞

・カッティングレベル、尺

・高音、低音、位相

ワーナーミュージック
・マスタリング
講師：北村 勝敏 氏

Ⅱ部：「カッティング」

・テストカッティング

・本盤カッティングの進め方

「質疑応答」 ～ 「試聴コーナー」

セミナー風景

JAPRS 技術セミナー「アナログ・レコードカッティングの実際」に参加して

株式会社ギャラクシー
佐久間 英夫

２月 16 日(土)、ワーナーミュージック・マスタリング MAS-1st にて開催された JAPRS 技術セミナー「アナログ・レコードカッティングの実際」に参加させていただきました。昨年 11 月開催の第１回セミナー「アナログ･レコードの基礎とカッティング」に続いての参加となります。講師は、前回同様に経験豊富なワーナーミュージック・マスタリングの北村 勝敏氏、司会に同マスタリングスタジオの菊地 功氏がご担当されました。今回は、貴重なカッティングマシンの名機であるノイマン VMS-80 を用いた実践編ということで、ご参加の皆様も身を乗り出すように北村氏のレクチャーを受けておりました。

まず北村氏から VMS-80 のシステム説明として、レプロデューサー、コンソール、カッターアンプ、カッティングレース、プレイバック機器等の解説をしていただきました。個人的に、国内や海外で実際のアナログ・レコードカッティング現場に幾度か立ち会った経験があるのですが、今回のように細やかなマシンの機能解説や実務的な講義は受けたことがなく、とても勉強になりました。それぞれの持つアナログならではのデリケートなファンクションやノイマン特有のコンソールにおけるルーティング、コンプレッサーなどとの相性など、北村氏のキャリア豊富な知識を惜しみなく参加者へ公開してくださいました。また今回解説に使用した VMS-80 と同時に、より稼働台数が多いと思われる VMS-70 の場合における機能や具体的な違いなども解説していただき大変参考になりました。さらに、カッティング前の調整といたしまして、カッティング・レベル、尺、および高音、低音、位相についてご説明いただき、後半はいよいよ実際のカッティング作業へとなります。

今回カッティング講習に使用されたマスター音源は、実際に北村氏が手掛けられ、昨年 9 月 25 日にアナログ・レコード２枚組で発売となりました『MIXER' S LAB SOUND SERIES Vol.3』（型番：SSAR-036 ～ 037）から「アイアンサイドのテーマ (Ironside Theme)」を、DAW は Pyramix を使用しておられました。最初にカッティングするにあたっての Pyramix のプレヴューヘッド用のセッティング、コンソール上のアッテネーター、イコライザー、コンプレッサー、及び VMS-80 のカッターアンプの注意事項やラッカー盤の取り扱い方などをご説明いただきました。一通りテスト・カッティングしたラッカー盤を再生しつつ、各メーターの振れ具合や溝の幅、歪みを確認後に、本盤カッティングとなります。実際にカッティング業務を行うにあたって、経験者ならではの苦労やコツなどをご教示いただき、デジタル・マスター音源とのサウンド比較を行いました。またラッカー盤のメーカーによる音の違い、溝の内周、外周による音質の変化、プレス工場による音の違い、といったアナログ・レコードならではのマニアックなお話も大変参考になりました。最後は恒例の試聴会となり、北村氏の手掛けた作品を参加者とともに楽しませていただきました。

昨今のアナログ・レコード・マーケットの復興で、国内スタジオでもカッティングマシンを再導入する動きが出てきていることなどから、今回のセミナーは非常に実践的で即戦力となるものでした。また改めて、デジタルとは違ったアナログ・レコード盤特有の温かみあるサウンドに魅力を感じた次第でございます。ご協力頂きました皆様方には心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

JAPRS 技術セミナー「アナログ・レコードカッティングの実際」に参加して

メモリーテック株式会社
佐々 直美

第１回にあたるアナログ・レコードの基礎とカッティングに参加が出来なかった為、多少の不安を抱えつつの参加でした。

まず講師の北村さんよりシステム、再生機、コンソール等機材の説明を受けました。

元音源を２系統、ずらして再生する事が必須である事や、ボタンひとつで切り替わる EQ 等考えてみれば必要だとは判るのですが、様々な工程を経て行う作業だと改めて再認識しました。

レベルや音質が収録時間に関係してきて悩ましいと仰っていたのが、CD のマスタリングではする必要のない心配事なので印象的でした。位相に関しては逆相のものはカッティング出来ないと思っていたので、可能である事は意外でした。

実際のカッティングでは今回は DAW から再生し行っていました。

顕微鏡で針先を覗くとラッカー盤が針で削られて溝が刻まれていく様が見られました。

スピーカーで再生中の音を小さくするとシャカシャカとヘッドフォンの音漏れのような音ではありましたが、針先から刻んでいる音が流れて実際に溝を刻んでいるだけでは無く、音楽が刻まれている事が実感として分かり興味深かったです。失敗したら１からやり直しで undo が効かない緊張感を感じました。

カッティングしたてのラッカー盤を試聴時に元の DAW の音と交互に聞かせて貰えました。

元の音源が 384kHz 32bit であったらしく、高域・低域共に制限の多いレコードと比べると差は大きかったですが、劣っている感じはあまり受けませんでした。

レコードを聴く時はレコードを聴く耳になるからと菊地さんから補足があり、腑に落ちました。

今回カッティングに使用した音源はレコードとして発売したもので、商品とラッカー盤との比較試聴も出来ました。

思ったより差があるなというのが正直な印象でした。

盤によって個体差がありそうだなと思いました。

今回のセミナーで体験できたことは大変自分にとって貴重な事でした。

機会を設けて下さりありがとうございました。

余談ですが部屋にあるターンテーブルを常設にしようかと目論んでおります。

2019年 JAPRS 新人エンジニア育成研修会レポート

２月23日（土）、昨年までの「新プロ・エンジニア研修会」から名称を改め「2019年JAPRS新人エンジニア育成研修会～スタジオで働くために今何を学ぶか～」が、専門学校委員会の主催により王子・北とぴあ ドームホールに於いて開催されました。

この研修会は、これから音楽スタジオ業界に就職を目指すJAPRS賛助会員専門学校１年生を対象とし、エンジニアという仕事について、また望まれる人材と業務の内容を知るための研修会で、今年で19回目となりますが、名称変更とともに内容の視覚化や現場スタッフの参加を増やすことにより、レコーディングという業務をより分かりやすくなるようにしました。今回は参加予定者54名のところ51名が参加（内訳は、東京34名、名古屋５名、大阪12名）となりました。

当日は、13:00に専門学校委員会担当者７名、事務局員３名が王子・北とぴあ ドームホールに集合し、13:30からの参加者受付に備え、準備を開始しました。
会場の準備もスムーズに行われ、参加学生も着席し予定どおり13:45より物井 謙行氏（ESP東京）の司会のもと、以下の内容で研修会が進行されました。

１．会長挨拶「スペシャリストを目指して」

高田 英男 JAPRS会長
ゲスト：中山 佳敬氏　　（株）JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント
ビクタースタジオ チーフエンジニア

高田会長

中山 佳敬氏

高田会長と中山氏

２．「レコーディングスタジオとはどんな場所か」

山田 幹朗氏
（株）JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント
ビクタースタジオ　エンジニアグループ
ゼネラルマネージャー

山田 幹朗氏

３．「今スタジオではどんな人材が求められているか」

明地 権氏　（株）サウンド・シティ　営業部長　ゲスト：中山 佳敬氏 / 山田 幹朗氏

明地 権氏

エンジニアとして求める人材とは
明地氏とビクタースタジオ 中山氏

採用を担当する立場から見て
明地氏とビクタースタジオ 山田氏

４．「現役アシスタントエンジニアＱ＆Ａコーナー」

司会進行：物井 謙行氏（専門学校 ESP エンタテインメント東京）

参加エンジニア：

飯島 知代氏	マルニスタジオ	東放学園音響専門学校 OG
五十嵐 覚氏	サウンド・シティ	東京音楽大学 OB
稲垣 杏理氏	サウンドインスタジオ	洗足学園音楽大学 OG
後藤 真太郎氏	ラボレコーダーズ	日本工学院八王子専門学校 OB

Ｑ＆Ａコーナー 風景

司会進行：物井 謙行氏

後藤 真太郎氏

稲垣 杏理氏

五十嵐 覚氏

飯島 知代氏

５．「専門学校委員会からのインフォメーション」

峯岸 太一氏（専門学校東京ビジュアルアーツ）

峯岸 太一氏

○2019 年 JAPRS 企業説明会

5 月 18 日（土）

会場：専門学校 ESP エンタテインメント東京

○レコーディングセミナー（スタジオワーク編）

（旧名称：新プロ・エンジニア養成セミナー）

6 月　8 日（土）　東京地区（サウンドインスタジオ Bst）

6 月 15 日（土）　大阪地区（スタジオ グルーヴ Ast）

6 月 29 日（土）　名古屋地区（名古屋ビジュアルアーツ「Pixy Studio」）

○ JAPRS 技術認定試験

7 月　7 日（日）　サウンドレコーディング技術認定試験

9 月　8 日（日）　Pro Tools 技術認定試験

レコーディングスタジオ業界というものが学生たちに伝わり難くなっている昨今、この研修会に参加したことでこの業界への興味を深め、学校生活で何を学ぶべきかを理解し、レコーディングエンジニアへの第一歩を踏み出されることを願っています。

ご協力いただいた講師の皆様、レコーディング・エンジニア、アシスタント・エンジニアの方々およびスタッフの方々に心より御礼申し上げます。

第３回 中華圏セミナー「中国クライアントとの取引」

分部 悠介氏

廣田渉外委員長

中国経済の成長と音楽市場の拡大に伴い、商習慣の違いや言葉の問題、決済に関する不安等から積極的な受注に至っていない状況がありますが、これらの障壁を乗り越えてインバウンド需要を取り込むべく企画した「中華圏セミナー」の最後となる３回目が、３月８日（金）に中野サンプラザ ８階 研修室１にて、（独）日本貿易振興機構（ジェトロ）様のご協力により、分部 悠介氏（弁護士・JETRO 海外コーディネーター）を講師に迎えて開催されました。（第１回「中国の音楽産業について」、第２回「中国のレコーディング、スタジオ業界について」）

相川 洋一氏（サウンドインスタジオ）の司会によりセミナーは始まり、分部氏の語り口調に参加者は引き込まれて行き、あっと言う間に時間が過ぎて行きました。

実際に起こり得る事例をもとに対応策について説明がなされ、参加者にとって内容の濃いセミナーとなりました。

最後に、廣田渉外委員長より今後の取り組みについて説明され、セミナーは終了となりました。

第３回中華圏セミナー　レポート

(株)サウンドインスタジオ
相川 洋一

司会進行：相川 洋一氏

渉外委員会では、このところの中国経済の成長および音楽市場の拡大を鑑み、「新たなスタジオユーザー開拓」の可能性が中華圏にあると注目いたしました。ただ、商習慣の違いや言葉の問題、決済に対する不安等から、なかなか積極的な受注に至ってないのが現状でした。そこで、「先ず、相手のことを知ろう」と始めたのがこの中華圏セミナーです。

第１回「中国の音楽産業について」、第２回「中国のレコーディング、スタジオ産業について」というテーマでセミナーを開催し、中国の音楽市場規模が桁違いのスケールであること、国家統制下でのビジネスという特殊性や、スタジオビジネスの成り立ちの違いを学びました。また、日本の音楽やアニメ産業の中国でのポジションを知り、日本のスタジオに求められているポイントを理解することで、中華圏のビジネスチャンスをどう掴んでいくかのヒントを得られたと思います。

そして、大詰めとなりますこの第３回は、「中国クライアントとの取引」というテーマで、講師に弁護士・JETRO 海外コーディネーターの分部 悠介氏をお迎えし、より実務的なお話を伺うこととなりました。分部さんは、日中のコンテンツビジネス実務に精通されており、JETRO 上海のコンテンツコーディネーターとして上海を拠点に活躍されておりますので、分部さんのお話には非常にリアリティがありました。中国企

業と取引する時の注意点として「全国企業情報公示システム」や「信用中国ウェブサイト」をご紹介いただき、「信用調査報告書」のサンプルも具体的に示していただきました。また、海外送金が厳しく管理されており、送金の際 16% も課税されることには驚かされました。

日本では、特に音楽業界という狭い業界ということもあって、「信用取引」的に契約書までは交わさずに仕事を受ける慣習もありますが、同じ感覚で中国とビジネスを進めてはいけないということを痛感しました。トラブルを未然に防ぐためにも、こと細かく契約書に記すことが重要ということです。さらに、万が一トラブルになった場合、日本の裁判所の判決は中国で執行できないので、管轄を中国裁判所にするべきとのお話は、たいへん参考になりました。

これまで中国は「近くて遠い国」で、よく解らないから近付かないという面もありましたが、違いを理解することで近く感じられるようになりました。まだまだ解決しなければならない問題もありますが、将来的には、関連団体とも協力して中国のクライアントを迎えるシステムが出来上がると良いと思います。

最後になりますが、今回のセミナーを開催するにあたり、独立行政法人　日本貿易振興機構（JETRO）の吉澤 和樹氏に多大なるご協力をいただきましたことを、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

セミナー風景

IP FORWARD

中国企業と取引する時の留意点

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

1

取引先事前チェックは不可欠

IP FORWARD

➢ 工商登録情報

全国企業信用情報公示システム「http://gsxt.saic.gov.cn/」で、相手の企業規模、法定代表者、株主といった基本情報を確認可能。

➢ 不良記録

上記システムを利用、あるいは、信用中国サイト「http://www.creditchina.gov.cn/」などを利用して、過去の処罰記録、訴訟記録を確認可能。

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

2

全国企業信用情報公示システム

IP FORWARD

誰でもインターネットで、企業基本情報を調査することが可能

出所：http://gsxt.saic.gov.cn/

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

3

信用中国ウェブサイト

IP FORWARD

出所：http://www.creditchina.gov.cn/

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

4

信用調査の活用

IP FORWARD

実態がイマイチよくわからない場合は、信用調査を活用することも有益

➢ 業務提携先として相応しいかどうか？
➢ 債権回収困難といったリスクはあるのか？
➢ 悪い噂はないか？

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

5

信用調査内容例

IP FORWARD

取得対象情報	大項目	小項目
企業登記情報	企業基本情報	名称、登記住所、連絡先、設立日、企業形態、資本金、株主、経営内容、代表者、従業員数など
	企業沿革	登記情報の変更履歴など
	資格	営業許可範囲、輸出入資格など
初歩財務情報	財務情報	貸借対照表（BS）、年度損益表（PL）など
その他の関連情報	知的財産権	商標権、特許権など
	公共記録	訴訟情報、信用失墜情報など

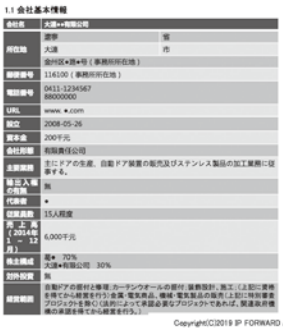
Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

6

信用調査報告書サンプル

IP FORWARD

企業登記情報



1.1 会社基本情報

会社名	大連●●有限公司
所在地	遼寧 省 大連 市 金州区●●路●号（事務所所在地）
郵便番号	116100（事務所所在地）
電話番号	0411-1234567 88000000
URL	www.●.com
設立	2008-05-26
資本金	200千元
会社形態	有限責任公司
主要業務	主にドアの生産、自動ドア装置の販売及びステンレス製品の加工業務に従事する。
輸出入業の有無	無
代表者	●
従業員数	15人程度
売上高（2014年1－12月）	6,000千元
株主構成	苑●：70% 大連●●有限公司：30%
対外投資	無
経営範囲	自動ドアの設計と修理；カーテンウォールの設計、装飾設計、施工（上記に資格を得てから経営を行う）金属・電気商品、機械・電気製品の販売（上記に特別要求プロジェクトを除く）（法的によって承認必要なプロジェクトであれば、関連政府機構の承認を得てから経営を行う）。

1.2 業績推移

（単位：千元）

財務項目	2013	2014
資産総額	2,024	1,735
所有者権益	299	303
払込資本金	200	200
売上高	2,974	6,000
純利益	15	17

2.3 株主情報

変更項目	当初	現在
法人代表	●	●
株主	●、●（比率不詳）	● 70%

2.2 登録情報の変更

氏名	出資金額（千元）	出資割合	出資形態
苑●	140	70%	通貨
大連●有限公司	60	30%	通貨
（合計）	200千元	100%	通貨

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

信用調査報告書サンプル

初歩財務情報

IP FORWARD

3.1 貸借対照

（単位：千元）

資産	12/31/2013	12/31/2014
現預金	268	69
短期投資	0	0
受取手形	0	0
売掛金	508	724
他の未収金	670	77
前渡金	81	81
未収利息金	0	0
未収輸出還付税	250	0
棚卸資産	0	528
内訳：原材料	0	
製品	0	
その他流動資産	0	0
流動資産合計	1,779	1,479
販売可能金融資産	0	0
満期日到来投資資産	0	0
長期株権投資	0	0
長期債券投資	0	0
投資性不動産	0	0
固定資産原価	274	384
減：減価償却累計額	29	128
固定資産純価値	245	256
減：固定資産減損準備	0	0
固定資産純額	245	256
工程物資	0	0
建設仮勘定	0	0
固定資産清算	0	0
処理待ち固定資産純損失	0	0
固定資産合計	245	256
無形資産	0	0
長期繰延費用	0	0
延期所得税資産	0	0
他の長期資産	0	0
非流動資産合計	245	256
資産合計	2,024	1,735

負債及び所有者権益	12/31/2013	12/31/2014
短期借入金	0	0
支払手形	0	0
未払金	609	293
応受金	0	0
未払給料	154	0
未払利息	0	0
未払配当金	0	0
未払税金	-42	-297
その他未渡金	0	0
その他未払金	1,205	1,430
未払費用	0	0
一年内流動の長期負債	0	0
その他流動負債	0	0
流動負債合計	1,725	1,432
長期借入金	0	0
長期未払金	0	0
社債及び未払金	0	0
延期収益	0	0
長期負債合計	0	0
負債合計	1,725	1,432
少数株主権益	0	0
払込資本金	200	200
内訳：中方投資	200	200
外方投資	0	0
資本剰余金	0	0
利益剰余金	0	0
内訳：法定公益金	0	0
未処分利益	99	103
外貨建換算差額	0	0
所有者権益合計	299	303
負債及び所有者権益合計	2,024	1,735

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

8

第３回中華圏セミナー資料より

Copyright IP FORWARD ALL Rights Reseved

信用調査報告書サンプル

IP FORWARD

初歩財務情報

3.2 損益計算書 （単位：千元）

項目	12/31/2013	12/31/2014
主な営業収益	2,974	6,000
減：主な営業原価	2,546	4,147
主な営業利益	428	1,853
加：その他の業務利益	388	0
減：製品販売税金	25	133
営業費用	643	146
管理費用	125	1,554
財務費用	1	1
資産原価損失	0	0
加：投資収益	0	0
公正価値変動損益	0	0
営業利益	22	19
加：営業外収益	0	0
減：営業外支出	1	1
利益総額	21	18
減：所得税	6	1
純利益	15	17

3.3 財務指標

主な財務比率	2013年	2014年	業界平均レベル
債務返済能力			
流動比率	103.13%	103.28%	93.30%
当座比率	103.13%	66.41%	—
自己資本比率	14.77%	17.46%	35.00%
借入金比率	0.00%	0.00%	—
収益能力			
販売総利益率	14.39%	30.88%	5.50%
税引き後利潤率	0.50%	0.28%	1.19%
資産収益率	0.74%	0.98%	2.98%
純資産収益率	5.02%	5.61%	8.50%
経営能力			
売掛金回転期	2.05ヶ月	1.45ヶ月	1.60ヶ月
買掛金支払期	2.87ヶ月	0.85ヶ月	—
棚卸資産回転期	—	1.53ヶ月	1.45ヶ月
総資産回転率	1.47	3.46	2.50

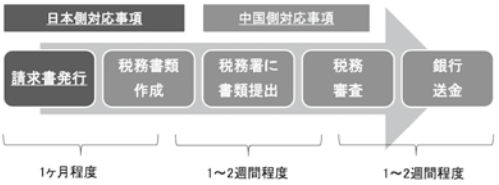
※注：業界平均指標は《企業業績の評価の基準2015》から強幹したもの。国務院の国資委評価局が制定されたものである。

9

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

海外送金問題

IP FORWARD



- 原則として、取引金額が5万米ドル以上の場合、上記手続きが必要
- 税率は約16%（取引内容によって異なる）
- 送金手数料は数百から数千元程度（送金額によって異なる）
- 租税制度をうまく利用することで、一部税金が返金可能

10

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

租税制度

IP FORWARD

中国側対応事項

- 領収書
- 銀行送金証明書類
- 納税証明書類

等を日本側に提供

日本側対応事項

- 中国側提供書類
- 契約書

等をベースに税務署申請

租税制度の具体的な手続き、及び、返還可能金額は、日本側企業の年間税金の申告内容によってだいぶ異なるため、詳細は、別途、税理士などに相談する必要がある。

11

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

IP FORWARD

契約実務ポイント

12

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

日中間の商慣習等の違い

IP FORWARD

	日本人	中国人
性格	細かい	おおざっぱ
行動の速さ	遅い	速い
コンテンツ産業歴史	長く成熟、プラクティスが確立	浅い、プラクティス確立途上
産業構造	テレビまだ強い、製作委員会が普及	ネット、モバイル中心、表現規制強い
権利の考え方	細かく共有に慣れている	100:0が基本

⇒日中相互の背景を十分に理解、尊重しつつ、相互の違いを前提に、十分に議論、説明し、明確な契約書を締結してビジネスをすることでトラブル発生を低減

13

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

日中間の契約に対するスタンスの違い

IP FORWARD

	日本人	中国人
契約遵守程度	規定事項は確実に守る	事態が変われば必ずしも守らなくて良い
基本視座	性善説	性悪説
契約不記載事項	商慣習上、守るべき事項は守る	契約に記載が無ければ何でもOK

⇒①過去のプラクティスに拘らずに、②遠慮することなく、詳しく規定し、③違反があれば、毅然とした態度で違反是正を促し、法的措置を取ることをいとわないことが肝要

14

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

共通チェックポイント

IP FORWARD

- 契約当事者の明確化
- 作業内容、段取り、スケジュール等の明示
- 使用スタジオ・設備の明示（スタジオ使用の場合）
- 派遣人員の明示、ビザ・移動・宿泊負担（エンジニア派遣の場合）
- 素材の提供・管理・返還
- 監修基準・手続きの明記
- 再委託の可否
- 対価、送金手続き

15

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

共通チェックポイント

IP FORWARD

- 第三者への権利侵害時の責任
- 権利帰属
- 秘密保持
- 違約責任
- 契約の解除
- 通知方法
- 不可抗力
- 準拠法・管轄

16

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

第３回中華圏セミナー資料より

Copyright IP FORWARD ALL Rights Reseved

準拠法・管轄

IP FORWARD

- 管轄

日本の裁判所の判決は中国で執行不可
⇒
ライセンス料支払いを求めることが主眼のライセンス契約の場合、中国の裁判/日本・香港等での仲裁を選択するのが適当

- 準拠法

➢ 日中の関連法規は大きく異なることはなく、また、実際の紛争は準拠法の選択と直接関係しないことが多い(ex.ライセンス料未払い、制作期限超過等)ので、あまり拘り過ぎなくてもよい

➢ 管轄として中国裁判所を選択する場合、準拠法の指定に拘わらず、事実上、中国法ベースで解釈されることが多いと思料

17

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

よくあるトラブルと解決例

IP FORWARD

Q:中国側と取引する際に、制作段階から、過度な仕様変更要請が来ることがあります。どの様に防止できるのか？

A:事前によく協議を行い、お互いが完全に理解・納得してから、契約で縛る事が重要（例　中方にて希望原案を出す⇒これを踏まえて日方から詳細企画案を作成⇒両方合意⇒契約⇒作業開始）

Q:事前に話し合った納品物の規定が曖昧で、結局、納品した結果、中国側はこれを納得せず、作業が無駄になったことがあります。どの様に防止できるのか？

A:納品物の内容や形式を具体的に決めることが重要
例　電子データの形式（WAV、MP3、MP4）
音質レベル（48kHz、96kHz）
ファイルの上限サイズ
納品方法（ファイル転送サービス、メール、CD、USB）

18

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

よくあるトラブルと解決例

IP FORWARD

Q:中方の確認時間があまりに長くかかったため、結局、納期に間に合わなかった、どうすればいいのか？

A:中国側の監修の方法について具体的に決めることが重要
例　中国側のチェックバックの回数は最大3回までとする；一回当たりのチェックバック期限を切る（3日営業日など）；中国側が守れなかった場合の納期変更案を事前に合意する。

Q:権利帰属などに関する規定が曖昧で、紛争に陥ると聞くこともありますが、事前の契約で解決できますか？

A:権利帰属に関連する以下ポイントを具体的に契約で合意することが重要

例 作品の著作権の帰属
主要スタッフの著作者人格権の処理
第三者の著作物利用に関する権利処理など

19

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

よくあるトラブルと解決例

IP FORWARD

Q:業務委託費用について、契約締結する直前で、一気に値切ってくるケースもありますが、防止策はありますか？

A:予め、値切り対応可能な感じで、見積額は少し高めに提示する、あるいは、幅ありで提示する。

Q:初回取引の場合、打合せが多くなることも少なくないので、同費用の負担を言ってくることもありますが、これは負担すべきでしょうか？

A：必ずしも負担する必要はない、契約時に費用負担について合意した方がベスト。

20

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

その他よくあるご質問

IP FORWARD

Q:請求時の消費税や源泉徴収の処理はどうするか？

A:中国側は、日本側の税金処理は気にせず、最終支払い費用だけを見るので、消費税や源泉徴収込みの形で、見積を提示・請求すること。

Q:中国取引先から日本スタジオ側に委託費用を支払う際に、中国側でかかる海外送金時の関連税金を、日本側で負担して欲しいと言われた場合はどうするか？

A：交渉時に、なるべく、お互いの国でかかる税金は、各自負担という形で合意すべき。どうしても負担しなければならない場合は、事前に負担パーセンテージを合意する（例：お互い半々で負担など）

21

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

その他よくあるご質問

IP FORWARD

Q:円建ての決済を要求できますか？

A:円建てによる支払いを要求することも可能、大手企業は送金可能なことが多い。一方で一番負担が掛からないのはドル建て。

Q:キャッシュレス決済を導入したほうが良いですか？

A:海外取引時にキャッシュレス決済はあまり利用されず、中国側における税処理も困難なので、受け入れられないケースが多い。

Q:中国は海外送金に規制があると聞きますが、どんなクライアントも個人法人を問わず、代金を円建てで日本に送金できるのでしょうか。

A:個人の場合は、外為年間使用上限がありますが、企業ならば、基本可能と思われます。

22

Copyright(C)2019 IP FORWARD All Rights Reserved

第３回中華圏セミナー資料より
Copyright IP FORWARD ALL Rights Reseved

第 30 回 NHK 技術交流会「吹奏楽生録セミナー」

技術委員会では、ＮＨＫ制作技術センター番組制作技術部との協議により、大編成を録音する技術の勉強と継承を兼ねて、吹奏楽生録セミナーを技術交流会として開催しました。

日時：2019 年 3 月 17 日（日）
場所：NHK　CR-509 スタジオ
講師：(一社) 日本音楽スタジオ協会
　　名誉会長　　内沼 映二氏
演奏：墨田川高等学校 吹奏楽部
　　指揮／鶴飼 奈民氏
協力：紀国 洋子氏（吹奏楽部 顧問）
　　西畑 弘明氏（吹奏楽部 OB）

＜セミナー概要＞
・高田技術委員長挨拶　～　講師・演奏者紹介

◎Ｍ－１「チュニジアの夜」演奏録音
・グループＢの方はスタジオ側で生音を体験
　グループＡの方は調整室内で録音作業の体験
　Ｍ-１プレーバック
・指揮者＆生徒　～　グループＢ

講師：内沼 映二名誉会長

指揮者：鶴飼 奈民氏

◎Ｍ－２ 行進曲「マリーン・シティ」演奏録音
・グループＡの方はスタジオ側で生音を体験
　グループＢの方は調整室内で録音
　Ｍ-２プレーバック
・指揮者＆生徒　～　グループＡ

◎マイク＆セッテイング説明＆質疑応答

高田技術委員長

第 30 回 NHK 技術交流会「吹奏楽生録セミナー」レポート

東京都立墨田川高等学校　吹奏楽部　外部講師 指揮者
鶴飼 奈民

今回はこのような貴重な体験をさせていただき、とても感謝いたしております。

私はサクソフォン奏者でもありますので、アンサンブルでのホールやスタジオレコーディングの経験はございますが、吹奏楽のレコーディングは参加したことがなく、指揮者としても初めての経験でした。生徒たちも学校での簡易的なレコーディングは経験しておりましたが、その時のマイクはセンターと両端の主に３点からくらいでした。今回はまずスタジオ入りをした時に目の前にたくさんのマイクがあることに全員が緊張したと思います。しかしとてもよい緊張感の中で演奏ができました。普段以上に一

音一音に責任を持って、集中して演奏しようと思ったはずです。また普段とは違う演奏配置でしたので『チュニジアの夜』は一人一人がアンテナを立てて更に集中できておりました。

プレイバック時は素晴らしい音響機器に囲まれ、あのような音を聴いたのは生徒たちは初めてなので、しっかりと耳に焼き付けたことと思います。その後の本番テイクは奏者全員がそれぞれ思う点を修正をして望めたと思います。

ミキシングされた後の音源は、プレイバックで聴いたものと同じと思えないほどのクオリティーで、各楽器の音が立っていること、バランスの凄さ、クリアさ、立体感などが加わっておりました。

生音での演奏会は、聴衆側に目で奏者の姿も見え、音が空気から直接耳や肌に伝わることにより、心の奥まで伝わるものだと思います。奏者側も聴衆の姿を見ながら演奏できるので、その場で生まれる一回限りの音楽を楽しむことができます。

レコーディングをし、しっかりとミキシングまでされたものは、生では聴こえづらい各楽器の細かい音など全てが鮮明に聴こえバランスも良くなるので、完成された音になると思います。また、マイクがそばにあることで変に力まずに演奏することができ、音色の乱れがなくなると思いました。

今回の経験で、レコーディングは演奏者だけの音楽ではなく、エンジニアの方々と共に作り上げることのできる音楽なのだと実感いたしました。今後 CD などを聴く時には、エンジニアの方々のこだわりなどにも視点を置いて聴こうと思います。

このようなとても貴重な素晴らしい体験をさせていただくことができ、内沼映二様、高田英男様、内藤重利様をはじめ、NHK の方々、JAPRS の方々に厚く御礼申し上げます。

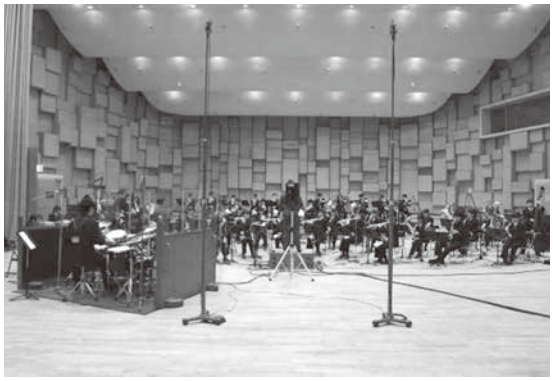
JAPRS-NHK 技術交流会参加報告

NHK 制作技術センター番組制作技術部音声
川付 明範

NHK CR509 スタジオにて実施された、JAPRS-NHK 技術交流会に参加したので報告する。今年のセミナーは、数々のコンテストで受賞歴を持つ墨田川高等学校吹奏学部を招き、JAPRS 名誉会長、内沼映二氏による、ビッグバンドのレコーディングセミナーであった。　これまで自分自身、大編成バンドのミクシングに携わった機会が少なく、様々な楽器の録音手法について学べる有意義な時間であった。

周囲の楽器の被りを考慮したマイクの選定やマイキングの手法や、Jazz のスネアには DPA4011 を使うとレンジの広い繊細な音が表現できるといった意図を解説いただき、番組制作に即フィードバックできるノウハウを学ぶことができた。また、内沼氏がマイキング時に学生一人ひとりに声を掛けている姿が印象的であり、演奏者に対する気配り・コミュニケーションもエンジニアとして必要な要素のひとつであることを強く感じた。

NHK は昨年 12 月から BS4K･8K 放送を開始し、22.2 マルチチャンネル音響が放送モードとして加わった。新たな収録ノウハウの蓄積も急務だが、基礎となるステレオミクシングスキルがあってこそ、とも感じている。今後もこのような技術交流を行う機会を積極的に活用し、自分自身のスキルアップへと繋げ、実践で役立てていきたい。



CR509 スタジオ 全景

ドラムセット スネアのマイキング

内沼氏の講義

真剣に聞き入る生徒たち

第 30 回 NHK 技術交流会「吹奏楽生録セミナー」参加レポート

日本コロムビア株式会社　A&C 本部スタジオ技術部
塩澤 利安

2019 年 3 月 17 日（日曜日）に NHK CR-509 にて“第 30 回 NHK 技術交流会「吹奏楽生録セミナー」”が開催されました。

講師は、巨匠エンジニア内沼映二氏。演奏は、東京都立墨田川高等学校吹奏楽部、指揮は鶴飼奈民氏です。セミナー参加者も大変に多く、皆さんの興味の度合いが違うと感じ取れました。

今回私がセミナーに参加した目的は、エンジニア内沼映二さんの吹奏楽録音のアプローチを是非参考にしたかったからです。私も、吹奏楽の録音に多く携わっておりますが、エンジニアが代わればサウンドも違い、違う視点での捉え方を学べるのではと思い参加致しました。

セミナーは A、B 班に割り振られ、それぞれスタジオ側での吹奏楽の生音を体験、コントロールルームでの録音作業を順番に見る形となります。

まずは、1 曲目『チュニジアの夜』です。この曲は「New Sounds In Brass」シリーズからの作品で、編成にドラム、ベースが入り、ポップスアレンジのソロも入る難易度の高い楽曲です。このシリーズは吹奏楽においては昔から親しまれています。「New Sounds In Brass」シリーズの CD 音源は多くの演奏者に刺激を与えてきた作品です。おそらく今回演奏して頂いた学生達も耳にしていたかと思われます。

早速セミナーが始まり演奏に入ります。私達の班は最初にコントロールルームで聴

かせて頂きました。演奏がCR-509のスピーカーから大音量で鳴り響きます。「これはっ！まさしく内沼映二さんのサウンド！」。ドラムをはじめ、パーカッションのバランスはブラスポップスサウンドのカッコ良さを引き出しています。この思い切りの良いバランス構成はなかなか真似出来ません。この曲の生演奏はスタジオ側では聴いていませんが、そこで鳴っている演奏バランスとは全く違ったものが、録音芸術として捉えられ創られていると想像します。

指揮者の後部にセッティングされたドラム

２曲目は、『行進曲「マリーン・シティ」』。こちらは１曲目とは打って変わって、全日本吹奏楽コンクールの課題曲です。私はスタジオ側での生演奏を聴く番です。この曲は、ドラム、ベースは使用せず、シンプルな吹奏楽編成で、最も吹奏楽の演奏力が試される楽曲です。パーカッションの使用楽器が変わるため、多少マイクセッティングを変更します。そこで奏でられた演奏は、東京都大会レベルの堅実な演奏でした。プレイバックをスタジオ側、コントロール側で聴きます。良くも悪くも新たな吹奏楽サウンド。内沼さんがおそらく大好きだと思われるパーカッションはデフォルメされ、定位もセンターに位置し存在感は実際の音量よりも大きく聴かせています。

収録後においては吹奏楽部の計らいで、様々な場所で生音を確認出来る時間を設けて頂きました。参加者にとっては各々の場所で実際の音を自分の耳で聴くことのできる滅多にない機会です。私も指揮者位置後方で聴かせて頂きました。プロの吹奏楽団では絶対に出来ない良いチャンスです。大抵の指揮者はこの位置で鳴っているサウンドを求めます。自分がレコーディングをする際、どの様なサウンドが求められているのかを確認することができました。

至近距離での生音体験

レコーディング後には、団員を代表し各パートリーダーからの感想を聞きました。「自分達の演奏を客観的に聴くことができた」、「マイクに入った音は実際の音とは違った」、「マイクがあると緊張する」、「普段体験できないこと」、「普段は指揮者位置で捉えられた音しか聴いていなかった」、「演奏したものがマイクに入っていた」、「感動した、ドラムはNew Sounds In Brassのようだった」などの感想が出てきました。これらの素直な意見は私たちにとって大変参考になります。また、演奏者にとっても多くの経験につながったことが伺われました。

最後にセミナー参加者に向け内沼氏から今回のレコーディングセッションにおいての総論がありました。使用したマイクは、スタジオ所有の物から内沼氏が普段使用している物を中心に配置して、足りない物は適材適所で選定して補いました。メインマイクは無指向性マイクでデッカツリーなどのワンポイントステレオ方式を想定していましたが、ドラム、ベースが指揮者の左後ろに配置されており、ステレオ方式では定

マイクセッティングの説明

位がおかしなことになって生かされないために、セッティングを断念せざるを得なかった状況です。ですが、やはり全体の空気感を捉えることは必要と感じていたので、SANKEN CO-100K をオフマイクとして使用しています。広帯域収音マイクは多くの割合でミックスしている様子で、オンマイクばかりでは各楽器が点のサウンドとなって表れてきてしまうので、全体のサウンド創りには貢献できたものだと想像できます。最終的なサウンドの構成はオンマイクを基本としてバランスを整え、録音芸術作品として創り上げたサウンドに仕上がっています。

各トラックは、コンプレッサーはほとんど使用せず、ドラムのキック、スネアに API 560 のイコライザーを使用し収録、モニターのトータルにおいて NEVE 33609、GML 9500 を使用しています。CR-509 は内沼氏が想像していたよりも残響は少なく、愛用の LEXICON Model 200 と 480L でリバーブを付加させています。今回はマルチトラック録音し、後に様々なセミナー、専門学校への教育素材としても生かせるように配慮された収録をしています。

私の感想を述べさせて頂きます。吹奏楽の楽曲は様々な編成、楽器、ジャンルがあります。今回の選曲はポップスアレンジとオリジナル楽曲であり全く内容が異なっています。時間に余裕があればそれぞれのセッティング、サウンドの方向性を変えてみる必要があったと考えます。同一のセッティングでは、各楽曲の特徴を生かすのは困難です。オリジナル楽曲であれば、内沼氏が想定していたワンポイントステレオ方式でのサウンド創りも可能だったと思います。どちらにしても創り上げる作品ですが、私もこのセミナーを通して、サウンドの方向性を定めるためのセッティングに関して改めて認識を深めることができました。

最後に、今後もこの様に貴重な生録セミナーが様々な形で行われ、たくさんの参加者にとって有意義なものとなることを望みます。

JAPRS セミナー「働き方改革関連法の解説と実務対応」実施報告

2019 年 4 月より大企業、2020 年 4 月より中小企業を対象に働き方改革関連法の残業時間規制法が施行されること受けて、この法案が音楽業界等に当てはめることが難しい部分も多く、会員社においても対応に苦慮することが考えられるため、この問題に対応すべく、渉外委員会では 4 月 5 日（金）東京ウィメンズプラザにて、講師に社会保険労務士法人 三平事務所 三平 和男氏を迎え、働き方改革関連法に関するセミナー「働き方改革関連法の解説と実務対応」を開催しました。

今回は働き方改革関連法の基本的な部分を確認することが中心でしたが、音楽録音スタジオ業界に特化した具体的な事例への対応について意見が伺える機会も検討しています。

法律	改正項目	施行日	
		大企業	中小企業
労働基準法	1．時間外労働の上限規制	2019年4月1日	2020年4月1日
		※ 一部の業務について適用除外・適用猶予あり。	
	2．中小企業における割増賃金引上げの猶予措置廃止	ー	2023年4月1日
	3．年次有給休暇の時季指定義務	2019年4月1日	
	4．フレックスタイム制の見直し		
	5．高度プロフェッショナル制度の創設		
労働時間等設定改善法	6．勤務間インターバル制度の努力義務化	2019年4月1日	
労働安全衛生法	7．医師の面接指導制度の拡充	2019年4月1日	
	8．産業医・産業保健機能の強化		
パート有期法	9．パートタイム・有期雇用労働者の待遇格差の是正	2020年4月1日	2021年4月1日
労働者派遣法	10．派遣労働者の待遇格差の是正	2020年4月1日	

働き方改革関連法による改正の全体像

講師：社会保険労務士
三平 和男氏

社会保険労務士法人 三平事務所
所在地：〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-19-3 第 2 双葉ビル 5F
URL　：https://www.mihirajimusho.biz

廣田渉外委員長

セミナー風景

会　員　動　向

1．会員数（平成３１年４月１日現在）

正会員（法人）	22 法人	準会員	３法人
正会員（個人）	14 人		
賛助会員Ⅰ	47 法人	賛助会員Ⅱ	２法人

2．入会

①賛助会員Ⅰ

〇学校法人イーエスピー学園

専門学校 ESP エンタテインメント福岡　　平成 31 年 4 月 1 日

3．退会

①個人正会員

〇加藤　英雄　　平成 31 年 2 月 28 日

〇静永　秀宏　　平成 31 年 3 月 31 日

4．法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

〇法人代表者、会員代表者変更

株式会社グリーンバード

（旧）西裏　健

（新）廣田　哲也（代表取締役）

〇地番変更

株式会社フリーマーケット

・スタジオアートーン四谷

（新）〒 160-0008 東京都新宿区四谷三栄町 14-5 名倉堂ビル B2

・スタジオサウンドバレイ

（新）〒 160-0003 東京都新宿区四谷本塩町 15-12 羽毛田ビル/カーサ四谷 B1,B2

②準会員

〇法人代表者変更

合同会社 SIGN SOUND

（旧）原　裕之

（新）井本　光紀（代表社員）

③賛助会員Ⅰ

〇法人代表者、会員代表者変更

日本板硝子環境アメニティ株式会社

・法人代表者

（旧）袴田　正人

（新）一色　伸悟（代表取締役社長）

・会員代表者
（旧）売野　匠
（新）杉崎　眞一（営業本部）
○法人代表者、会員代表者変更
学校法人 Adachi 学園　専門学校名古屋ビジュアルアーツ
・法人代表者
（旧）中川　貴司
（新）清水　禎徳（校長）
・会員代表者
（旧）清水　禎徳
（新）井筒　伸太郎（ミュージシャン学科長）
○会員代表者変更
学校法人イーエスピー学園　専門学校 ESP エンタテインメント大阪
・会員代表者
（旧）大橋　健志朗
（新）原田　朝子（キャリアサポートセクション）
○法人代表者、会員代表者変更
学校法人 東放学園　東放学園音響専門学校
・法人代表者
（旧）奈木野　浩
（新）斉藤　晃（理事長）
・会員代表者
（旧）奈木野　浩
（新）酒井　努（校長）

④賛助会員Ⅱ
○住所変更
株式会社ステレオサウンド
（新住所）〒 158-0098　東京都世田谷区上用賀 5-12-11
TEL：03-5716-3883（代表）

5．その他
○経済産業省商務情報政策局 コンテンツ産業課
（新）中山　祥（課長補佐）
（新）渡邉　佳苗（係長）

○代表者変更
株式会社 ソニー・ミュージックアーティスツ
（新）斉藤　剛（代表取締役 執行役員会長）
（新）林田　大助（代表取締役 執行役員社長）

○新会社設立
瀧口　博達

（旧）株式会社グローイングアップ　パラサイトマスタリング
〒154-0015　世田谷区桜新町 1-11-5
（新）タッキーズ・マスタリング株式会社　代表取締役
〒107-0062 東京都港区南青山 7-3-6　南青山 HY ビル 2F
TEL：03-6418-0882

○代表者変更
株式会社電通クリエーティブX
（新）兼藤　佳行（代表取締役社長）

○代表者変更
株式会社 ドリーミュージック
（旧）三浦　剛史
（新）楠木　紳市（代表取締役社長）

○事務局移転
日本コンパクトディスク・ビデオレンタル商業組合
（新住所）〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 2-22　カンナビル 3F
TEL：03-3234-8824　FAX：03-3234-8859（TEL&FAX は変更なし）

○代表者変更
株式会社 莫
（旧）森　知明
（新）髙城　基道（代表取締役社長）

♪　編　集　後　記　♪

心地よい風、若葉が目に染みるこの季節とともに、
令和の御代に立ち会える事の幸せを感じるこの頃です。

Smith

今年は、オリンピックの前年で、初のラグビー・ワールドカップの開催国ですが、何とかブロックリーグを勝ち抜いて、トーナメントに進出して欲しいですね。

hair ken short

4月1日から東新宿駅の新しい出口B-3が使用出来るようになりました。これからやって来る梅雨の季節、JAPRS事務局へのアクセスが大変楽になるはずです。最近で一番うれしい出来事でした。

pesonai

季節予報によると、今年の夏は晴れの日が少ないとのこと。暑さが少しでも和らげばよいのですが・・・。

mm

********** 総　務　委　員　会 **********

委 員 長　清水　三義（青葉台スタジオ）
委　　員　佐藤　賢一（事務局）
〃　　内藤　重利（　〃　）
〃　　伊東　真奈美（　〃　）

****

【発行人】会　長　高　田　　英　男　　【発　行】2019年（令和元年）6月
【発行所】一般社団法人　日本音楽スタジオ協会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号　モナーク大久保3F
TEL. 03－3200－3650　　FAX. 03－3200－3660
http://www.japrs.or.jp　　E-mail:japrs@japrs.or.jp
【編　集】総　務　委　員　会　　【印刷所】株式会社研恒社

JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios
http://www.japrs.or.jp E-mail:japrs@japrs.or.jp